Ⅰ　青果情報

１　４月下旬～５月中旬の経過

気　象

４月下旬は、全国的に高温基調となった。東・西日本では低気圧や前線の影響を受けやすく、降水量は西日本太平洋側で平年よりかなり多く、日照時間は東日本太平洋側・西日本で平年より少なかった一方、北日本太平洋側と沖縄・奄美は平年より多かった。

５月に入ると、上旬は暖かい空気に覆われやすかった北・東日本で高温となり、低気圧や寒気が通過した北日本太平洋側と、梅雨前線の影響を受けた沖縄・奄美でそれぞれ多雨となった。中旬は本州付近を中心に高気圧に覆われ、北・東・西日本でかなり高温となり、広い範囲で少雨・多照となった。

野菜類

入荷量

「キャベツ類」「たまねぎ」「ばれいしょ類」を中心に入荷。

「キャベツ類」は５月上旬に品種の切替えによる端境で数量が減少し、その後一時的に回復したものの不安定な入荷が続いた。

「にんじん」は徳島県産が漸減していく中、関東産へ切り替えが進み数量が増加した。

野菜全体では、４月下旬から５月中旬までの入荷量は 103,497 t（前年比 93.4%）と前年をかなり下回った。

相　場

大型連休から母の日にかけては全体的に販売が伸び悩み、期待したほどの需要喚起には至らず、品目によっては高値疲れや販売苦戦も散見された。

「キャベツ類」は不足感が続き、高値傾向での販売となった。

「にんじん」は大型連休後に販売が鈍化し、安値での展開となった。なお、前年に高値が続いたことから今年はそれを大幅に下回る価格が続いた。

野菜全体では、４月下旬から５月中旬までの価格は 295 円/kg（前年比 101.9%）と前年並であった。

果実類

入荷量

「かんきつ類」「すいか類」「いちご類」を中心に入荷。

「かんきつ類」は「不知火」をはじめとした晩柑類は豊作傾向の一方、気温上昇に伴う品質劣化が散見された。

「ぶどう類」ではハウス栽培の入荷が始まり、４月中旬から入荷が始まっていた「もも類」も徐々に増量していった。

果実全体では、４月下旬から５月中旬までの入荷量は 18,703t（前年比 98.8%）と前年並であった。

相　場

販売金額は「いちご類」「かんきつ類」「すいか類」の順に大きかった。

「かんきつ類」は上述の理由から販売は苦戦し、安値傾向となった。「すいか類」も高値となった前年を下回る相場が続いたが、販売は好調。

「ぶどう類」「もも類」は高価格帯を牽引する輸出向けが前年ほど振るわず、荷動きは鈍かった。

果実全体では、４月下旬から５月中旬までの価格は 610 円/kg（前年比 93.6%）と前年をかなり下回った。